

平成24年度

## 第5回 まちづくり寺子屋

を開催しました

日時：平成25年2月23日（土） 午前10時～午前11時30分

場所：茨木市立男女共生センター ローズWAM 5階 研修室

テーマ：「多世代が歩いて暮らせるまちづくり」  
～あなたが創る暮らしやすいまち～

講師：同志社大学大学院 教授 関根 千佳 氏

関根先生は、多様な人に使いやすいICT機器のコンサルティングや、高齢化の進む地域の活性化支援を行うとともに、多くの省庁・自治体・企業・学会などで委員を務められ、平成24年4月から同志社大学大学院で教鞭を執られています。

ICT (Information and Communication Technology)  
= 「情報通信技術」

講演概要は次のとおりです。

今年度第1回まちづくり寺子屋「多世代が歩いて暮らせるまちづくり～ユニバーサルデザインで見直す暮らし～」に続き、講演させていただきます。前回の振り返りを行った後に、ユニバーサルデザインの社会を実現するために、みなさんができることを考えていただきます。



ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、体格などに関わらず、より多くの人ができることを最初から考慮して、まち、もの、情報などを作るという考え方と、それを作り出す過程であり、子ども、女性、外国人、障がい者、高齢者だけではなく、すべての人が対象です。整備後に障壁を除去するバリアフリーよりもコストが軽減され、デザインも美しく、いろいろな人にとって便



同志社大学大学院  
教授 関根 千佳 氏

利になります。しかし、みなさんが「こうしたい・こうありたい」と思わないとユニバーサルデザインは進まず、社会もまちも良くなりません。

そこで、私たちが社会やまちを変えるための三つの行動があります。

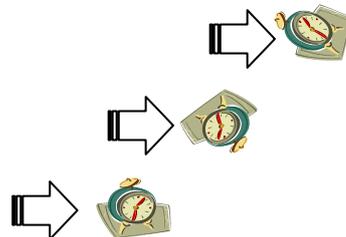
- ・「こうありたい」未来のための課題を見つけ
- ・「こうすればできる」解決策を考え
- ・「ここはいいね！」を見つけて誉める

市民が行政や企業の良き助言者になるのは使命であり、主権者は市民です。

詳しくは、『平成 24 年度第 1 回まちづくり寺子屋を開催しました』（平成 24 年 12 月発行）を参照してください。

グループワークの手法をバックキャストイングで実施します。バックキャストイングとは、将来を予測する際に、持続可能な目標となる社会の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今何をすれば良いかを考える手法であり、目標を設定して将来を予測することです。

そこで、みなさんに 100 年後の茨木のまちの姿を想定し、グループで話し合ってください。それでは、100 年後の 2113 年にタイムスリップします！みなさん念じてください！



今、みなさんは 100 年後の 2113 年にいます。茨木は高齢者、子ども、外国人や障がい者の方などが住みやすいユニバーサルデザインの社会を実現していました。その 100 年後の住人として、100 年前（現在）に伝えたいものを書き出して、グループで話し合ってください。



## 【100年後の茨木】

### ～交通～

- ・交通網が充実している。
- ・まちの中の道路が整備され歩きやすい。
- ・歩いて暮らせるまちになっている。
- ・交通事故がない。
- ・飛行機の時代になっている。
- ・自転車がない。
- ・車が空を飛んでいる。
- ・家が空に浮いており、寝ている間に目的地に到着する。

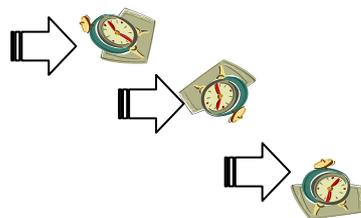
### ～人・社会～

- ・全ての人に働く場がある。
- ・個人能力に応じた楽しい職場になっている。
- ・学生のまちとなり、学生交流が活発になっている。
- ・コンビニエンスストアが高齢者介護など福祉サービスを行っている。
- ・笑顔あふれる人が集まっている。
- ・どのような病気も薬で治る。
- ・食べ物をエネルギー装置で簡単に作ることができる。
- ・自然の力で発電されたエネルギーを自宅で使える。
- ・高齢者も子どもも安心して外出できる。
- ・茨木の名産がつけられている。
- ・新種の農作物が誕生し、農業が活性化している。

### ～まち～

- ・道路に段差がない。
- ・楽しく過ごすことができる公園がある。
- ・ショッピングモールにコンサート会場がある。
- ・小売店がなくなっている。
- ・住居の地下化、屋外の自然化。
- ・乳幼児・高齢者・障がい者が会話しながら憩える場がある。
- ・エレベーターが発達し、階段が少なくなっているため、足腰を鍛えることができない。
- ・自宅から商店・会社・学校などへ徒歩10分以内で行くことができる。
- ・歴史的遺産がたくさんある市になっている。
- ・三世代住宅が主体となっている。
- ・電柱がない。

100年前の2013年に戻ります。みなさん念じてください！



2013年に戻りました。

机の上にあるものは、100年後の未来の方からのメッセージです。

そのメッセージを見て、100年後のユニバーサルデザイン社会を実現するために、自分が何をできるのか、また、何をしなければならないのかを話し合い、発表してください。

### 【こうしたい！こうしなきゃ！私がユニバーサルデザインの社会をつくる！～】

- ・ 学生同士の交流によるイベントづくりを実施する。
- ・ 65歳以上の高齢者を再雇用し、ノウハウを活用する。
- ・ 高齢者の憩いの場所をつくる
- ・ 世界に誇る茨木名産品をつくる。
- ・ クリーンエネルギーを普及させる。
- ・ 公共交通を充実し車を減らす。
- ・ 自然環境の保護をする。
- ・ 温かいコミュニケーションづくりを実施する。
- ・ 豊かな人間関係の構築を行う。
- ・ 福祉の完全充実を図る。
- ・ 農業を活性化させる。
- ・ 茨木の魅力をつくり、見つけ、伝える。
- ・ 緑の多い公園をつくる。
- ・ 茨木名産品のお菓子をつくる。
- ・ 空飛ぶマントを開発し、体の不自由な人も移動が自由になる。
- ・ 空を飛ぶ車を実用化させる。
- ・ 自動車・自転車・人を完全に分離できる道をつくる。



### 【先生の講評】

自分の固定概念や既成概念を取り除くことはとても大変ですが、グループで話し合うことで自分を解放することができ、今の職業や肩書きなどの束縛から脱出することができます。10年後のことを考えると、現実的になり、暗い意見が多く出ますが、100年後の将来を考えると、明るい意見と暗い意見が出ます。そして、未来から現在に戻ると、自分の行動で未来を変えられるのではないかと思い、積極的な意見が多くなります。

その意見を忘れず、ユニバーサルデザインの社会に向けて、今後の活動に取り組んでください。

編集：茨木市 都市整備部 まちづくり支援課

発行：平成25年3月

〒567-8505 茨木市駅前三丁目8番13号

TEL：072-620-1802

E-mail：machidukuri@city.ibaraki.lg.jp